

第3章 区域計画

● 地域ケアプラザ・地域包括支援センター、区社会福祉協議会、区役所の取組

地域ケアプラザ・地域包括支援センターが区役所や区社協等と連携して実施した共通の取組と、それぞれの主な取組について、紹介します。

● 地域ケアプラザ・地域包括支援センターとの連携

地域ケアプラザは、市民の誰もが住み慣れた地域において健康で安心して暮らせるよう、地域の福祉・保健活動を支援し、福祉保健サービス等を身近な場所で総合的に提供する施設です。

地域包括支援センターは、介護保険法に定められた、地域住民の保健・福祉・医療の向上、虐待防止、介護予防マネジメントなどを総合的に行う機関です。横浜市では、地域ケアプラザ及び市が指定する特別養護老人ホーム（緑区では、「特別養護老人ホーム ふじ寿か園」）に、機能の一つとして地域包括支援センターを設置しています。

緑区内の地域ケアプラザ及び地域包括支援センターの紹介や主な取組は、P. 88～94をご覧ください。ここでは、共通の取組を紹介します。

【生活支援体制整備事業実践報告会】



緑区内にある地域ケアプラザ6館とふじ寿か園・地域包括支援センター、区社会福祉協議会に配置されている「生活支援コーディネーター」は、住み慣れた地域で、誰もが安心して暮らし続けられるように、生活の支えとなるような仕組み、歳を重ねても、お互いに支えあい、いつまでも元気に活躍できる地域づくりをお手伝いしています。

今回の実践報告会では、日頃、生活支援コーディネーターがどのように地域活動を応援しているのか等、それぞれ1年間を振り返り、報告しました。

また、静岡福祉大学の西尾敦史先生から「高齢者の“自分らしく生きる”を支えるために～地域支援と個別支援の一体的展開について～」をテーマにお話をお聞きしました。



▲ 実践報告会の様子

【地域活動交流コーディネーターハウス】

地域ケアプラザの地域活動交流部門とそこで働くコーディネーターの職種を知っていただくことを目的に「コーディネーターハウス」と銘打って区役所一階イベントスペースでイベントを行いました。

全国に先んじた横浜市唯一の職種であること、職業として魅力的な職種であることを、地域や世代を越えてアピールする5日間になりました。

さらに、これを機会にマスコットキャラクターを作ることになり、総数368枚の応募作の中からマスコットキャラクター「地域・交流くん」が決まり、お披露目の場となりました。

